ART FOR CHILDREN展
子どもの心 × 美術作品

「作品の名前を考えてみようワークショップ」
結果発表

かっぱぼん賞　「見はるんぼう」

こどもたちのことはボクに任せて。子供たちをしっかり見守るぞ、という、決意と愛情を感じるネーミングですね。 みはるんぼうという音も みはらしがいいイメージを与え、なおかつ心地よい楽しい響きがあります。すっくと立つ姿、しっかりした眼差しから意志の強さが伝わり、ただ可愛いだけでない魅力を感じる作品の意図が反映されたタイトルではないでしょうか。石のガードマンのよう、ですね。

名前を考えてもらった作品
田中 毅・作「かっぱぼん」

ファンタジー賞 「水辺から」

「三島のきれいな水の中からやってきたよ、楽しそうだね。僕も仲間に入れて」と言い出しそうですね。「水辺から」という短い言葉ですが、聴く人によってさまざまな想像力をかきたて、幻想的なタイトルではと意見が一致しました。水辺から眺めている様子も目に浮かぶ、想像の奥行きを持つタイトルではないでしょうか。

ほほえみ賞 「はだかくん」

5歳の男の子の名づけたタイトルです。素直なまなざしで、見たところをそのままにありのままに表現していますね。「わぁ、おへそがあるぞ、キミは はだかなんだね、はだかくんだね」とそんな風に新鮮な発見をして、その思いをそのまま名前にしたことが伝わりました。これこそ子どもにしかできないことかもしれません。

フレンドリー賞 「あ、こんにちは」

「あ、ここにいたんだね、こんにちは」という、あ、であり、「あ、どこかでみたことあるよ、こんにちは」というあ、であり、「あ、きみとともだちになりたいよ、こんにちは」という、あ、ではないか、と「あ、」という二文字からいろいろな状況が浮かびました。作品と向き合って親しみが生まれ、距離が縮まった感じが名前にあらわれていますね。座敷童のような、ひょっと見たらいたぞ、と、気づかないけれどそばに存在しているものの姿をみつけたような感じもありますね。

ハートフル賞 「カポ(一緒に遊びたい)」

0歳の赤ちゃんの応募(実はパパママが考えた？)作品です。0歳の我が子と一緒に、という温かい気持ちで選んだ様子が、カポという子供にも伝わる楽しげな音に表れているようです。かっぱぼんの両親がこどもになまえをつけるとしたら、カポになったかなぁ、という作者の意見も出ました。作品の愛らしいかたちと、カポという音のイメージとが一致していることも魅力です。カッパと発音できない赤ちゃんもカポなら言えそう、そんな愛情のこもったタイトルとなりました。

審査員の方たちから

題名を見ていて、一所懸命考えてくれたことが伝わり有難かったです。作家としては色々な見方をしてもらったことを知りこれからのヒントを得られたような気がしました。選にもれたけれど気に入ったものもありました。（作者 田中毅さん談）

この彫刻作品をみなさんが言葉で表現しようとし、思いがけないイメージの広がりへ連れて行ってくれたことが面白い体験でした。投票されたたくさんの名前とともに作品を見直してみると、新たな作品の印象がうかびあがったり、作品への様々な視点が開けたり、名前をつけることを通してみなさんと作品とがそれぞれに対話した様子を伺うことができました。名前のもつ力や、名前をつけることの特別さも感じました。（大岡信ことば館学芸員 中村童子さん談）

名前やタイトルを付けることで作品鑑賞への想像力が深められて行くプロセスを味わえたことが今までにない経験でした。今後自分の作品のタイトルを付けるときに何かが変わるように思います。一つの作品も本当に色々な見方ができるんだなぁ、と驚きました。子供たちは凄いですね。（画家 山口牧子さん談）

子供心を持つ大人たち、の応募もありましたが、短い言葉にその人の暮らしや思いや人生が凝縮されているようですね。意表を突くネーミングもありますが、それと同時にいくつか共通した表現が見受けられ、この作品の持つメッセージや共通の匂いを見る人が感じ取ったのだなぁという思いでした。名前を付けるという行為から、相手の存在に「気付いた者」「気付かれた者」という二者の温かい心の触れ合いが生じていたことを感じます。（オブザーバーとしてご参加、美術番組プロデューサー 山本修平さん談）

12月11日の秋晴れの中、「子供心を持つ大人」である選考委員、オブザーバーの4人の方たちは、子どもたちからのタイトル付け応募作品54点を前に、計4時間ほど情熱的に、楽しく、そして時に意見を戦わせて真剣に厳正なる審査をして下さいました。「美術作品は多様な見方があってよく、正解のない世界であるということを子どもたちに伝えたい」という思いを共有して、その原点に立ち戻りながら熱心に討論が繰り広げられました。この場を借りて心より御礼申し上げます。選に漏れた作品の中にもいくつも素敵なタイトルがありました。参加してくださった0歳から75歳のかたたち、ありがとうございました。なお、今回皆さんが名前を付けてくれた作品かっぱぼん（田中毅氏作）は、来春三島市内の公園に設置される予定です。正式に決まりましたらお知らせをさせて頂きます。その時はぜひ会いに行ってくださいね。
（GALLERY エクリュの森　田村燿子）

幅広い年齢の方からご応募いただきました

選考風景　力作ぞろいに感嘆